

フランスの都市政策の一環としての参入最低所得 R M I の役割  
—社会的ミニマムという給付制度と地域コミュニティ政策からみて—

代表 大家 亮子（成城大学短期大学部 助教授）  
委員 佐谷 和江（計画技術研究所 代表取締役）  
委員 山重 芳子（成城大学経済学部 助教授）

〔研究報告要旨〕

本研究は、フランスの参入最低所得 R M I : R evenu Minimum d'Insertion に関する基礎研究である。RMI は、1988 年創設の制度で、厳しい経済社会環境下で社会保障のセーフティーネットから離脱してしまった「社会的排除 (exclusion sociale)」の人々を再び社会的・経済的に社会参入させるための総合的政策ツールとして誕生している。生活最低限を保障する社会的ミニマムの給付の一つで、特徴は「金銭給付」に加えて社会復帰するための自立支援プログラムである「参入プログラム (programme d'insertion)」を伴っている点にある。

本研究の目的は、第 1 に、都市政策の一環としての参入政策である参入最低所得 RMI の制度的枠組みを明らかにすることである。第 2 に、RMI は金銭給付と参入プログラムの 2 つの側面があるが、都市社会政策的な観点から RMI 制度の持つ新規性、独自性を捉えることである。そして、第 3 に都市政策の生活弱者対策としての RMI の特徴をまとめることである。

本研究の結果、RMI が、雇用政策・参入政策・「暮らしのセーフティーネットの保障」を同時に解決するための総合的政策ツールであることが明らかにされた。「参入プログラム」については、雇用プログラムに代表される職業的参入プログラムの利用は一部に過ぎず、残りは健康・社会・住宅プログラムの社会的参入プログラムである。制度は、人々が最終的に支援の手を離れること、「RMI 退出」を想定しているが、一方で、簡単に抜け出せない人々もいることを認め、「RMI 滞留」も許容している。また、RMI の制度的特徴としては、世正規には社会的ミニマムであるが、役割的には社会的ミニマムと失業補償制度両方の性格を備え、実体が間隙的制度である点に新規性がある。

RMI は、大量失業時代にあるフランスで、「暮らしのセーフティーネットの保障」で基盤が脆弱な特に失業補償のない失業者を支援し、既存の失業補償制度の限界に対してある程度効果を発揮していることが理解できた。